

行政視察報告書

平成27年8月

議会棟に関する調査特別委員会

- 1 視察実施日
平成27年8月19日（水）
- 2 視察先
三田市・南あわじ市
- 3 調査事項
 - (1) 諸室の特徴的な構造について
 - (2) 中継システム等議会に関する施設整備全般
- 4 参加者

委員長	東	野	敏	弘
副委員長	古	西	祐	子
委員	岡	崎	義	樹
	岩	崎	貞	典
	高	橋	博	久
	村	井	公	平
議長	林		晴	信
随 行	筒	井	研	策（財政課長）
	富	原	幹	男（議会事務局主任）

三田市

- 1 市の概要
 - (1) 市制施行年月日 昭和33年7月1日
 - (2) 人 口 114,214人（平成27年8月1日現在）
 - (3) 面 積 210.32km²
- 2 調査事項
 - (1) 新庁舎の概要

ア 所在地	三田市三輪2丁目1番1号		
イ 敷地面積	19,329m ²		
ウ 建物概要			
	・建築面積	2,485m ²	・延べ面積 12,955m ²
	・地上6階建て		・高さ 32.8m
エ 構 造	鉄筋コンクリート造（免震構造）		
オ 工 期	平成25年3月から平成26年12月 （全体工期は平成28年度末）		

カ 総事業費 55億4千万円

キ 業務開始 平成27年1月13日

(2) 新庁舎の特徴

ア 誰もが利用しやすい庁舎

- ・わかりやすいサインなど多様な情報伝達
- ・低層階に市民利用の多い部署を配置
 - 1・2階に集約配置
 - (1階から2階までのエスカレーターを設置)

イ 質の高い行政サービスの提供

- ・オープンフロアを採用
 - 機構改革の変更など即座に対応
- ・高度情報化への対応
 - 最新のICT環境(情報通信技術)への対応
- ・施設の長寿命化
 - 維持管理がしやすい庁舎
 - (不必要な工事を行わないための配慮)

ウ 防災拠点としての整備

- ・高い耐震安全性の確保・ライフライン対策
 - 免震構造の採用
 - 屋上階に自家発電設備の設置
- ・災害対策
 - 屋外活動スペースの整備(ゆとりのある空間)

エ 環境面への配慮

- ・自然エネルギーの活用・省資源化
 - 太陽光発電設備の設置、雨水利用
 - 自然換気の利用(吹抜け構造を採用)
 - LED灯や高効率の設備機器の導入
 - (トイレには人感センサーを設置)

(3) 議会諸室について

ア 議会フロア

- ・最上階に議会関係諸室を集約
 - エレベーター前に議会事務局を配置

イ 諸室の構成

- ・議場、議長室、副議長室、正副議長応接室、委員会室、議員応接室、議会図書室、会派控室、議会事務局など

ウ 市民展望ひろばの併設

エ 本会議場

- ・三田青磁の登り窯と見立てた議場
 - バックボードを三田青磁に似したタイル貼り
 - 登り窯を模した吊り天井

- ・床段差を設けず、フラットな空間
 - 車椅子及び他利用に配慮
 - 各席には可搬型の机・椅子を設置
- オ 委員会室
 - ・様々な会議形態への対応
 - スライディングウォール（パーティション）により3室に分割可能
- カ 会派控室
 - ・会派数の変動への対応
 - スチールパーティションによる間仕切り壁
- (4) 本会議場内中継システム等設備状況
 - ア 大型モニター
 - ・3台設置（カメラ映像、出席議員数、質問残時間の表示）
 - イ 机上マイク
 - ・ワイヤレスマイクを採用
 - ウ カメラ
 - ・前後に2台ずつ、計4台設置
 - 前方に向けた2台のうち、1台は手話要約専用（議場映像にカットイン可能）
 - エ 磁気ループ
 - ・難聴者用に議場設備に組み込み
 - オ 中継
 - ・議場の映像は、市内9施設、庁舎内のテレビにライブ中継を実施

南あわじ市

1 市の概要

- | | |
|-------------|-----------------------|
| (1) 市制施行年月日 | 平成17年1月11日 |
| (2) 人口 | 49,433人(平成27年7月末日現在) |
| (3) 面積 | 229.01km ² |

2 調査事項

(1) 新庁舎の概要

- ア 所在地 南あわじ市市善光寺22番地1
- イ 敷地面積 27,791m²
- ウ 建物概要
 - ・建築面積 2,649m²（新庁舎2,258m²）
 - ・延床面積 7,329m²（新庁舎7,055m²）
 - ・地上4階建て ・高さ 22.0m

エ 構 造 鉄筋コンクリート造（免震構造）
オ 工 期 平成25年9月から平成27年2月
カ 総事業費 29億2千万円
キ 開 庁 日 平成27年4月6日

(2) 新庁舎の特徴

ア 誰もが訪れやすい庁舎

- ・ 来客用駐車場や公共交通の利用を敷地の中央に集約
- ・ 新庁舎と既存庁舎をつなぐ渡り廊下

イ わかりやすい施設構成

- ・ 来庁者の多い市民窓口を1階に集約
- ・ 案内サインを随所に配置

ウ 市民に開かれた庁舎

- ・ 災害時の一時退避やボランティア等の活動拠点として利用可能な市民ロビー
- ・ 三原川沿いに面した開放的な市民広場

エ 機能的で経済的な庁舎

- ・ 柱の少ない工法を採用し、フレキシビリティ（柔軟性）を向上
- ・ 広がりのある空間を実現した市民エントランス

オ 災害に強い環境共生型庁舎

- ・ 免震構造の採用
- ・ 72時間バックアップ可能な非常用エンジン
- ・ 太陽光パネルの設置、電力使用量の見える化

カ 「南あわじ」らしい庁舎

- ・ 淡路瓦の利活用
➤ 外壁・渡り廊下・議場前の壁・市民ロビーの床など

(3) 議会諸室について

ア 議会フロア

- ・ 最上階に議会関係諸室を集約
➤ 議会事務局はエレベーター前に配置し、ガラス張りを採用

イ 諸室の構成

- ・ 議場、正副議長室（一室）、応接室、委員会室、議員協議会室、議会図書室、会派室、議会事務局など

ウ 議場ロビー、展望ロビーを設置

エ 本会議場

- ・ 旧南淡町議場で使用していた机を加工し、再利用
- ・ 議長席、傍聴席を除き、床面はフラット

オ 委員会室

- ・ 旧委員会室で使用していた机・椅子を流用

カ 会派室

- ・ パーテーションによる間仕切り

- ・流し台を新設
- キ 議場ロビー
 - ・42インチテレビモニターを設置
 - ・議員登退庁表示板を移設
- (4) 本会議場内中継システム等設備状況
 - ア カメラ
議員席側撮影用2台及び執行部席側撮影用2台、計4台設置
 - イ 机上マイク
有線マイクを採用
 - ウ 残時間表示システム
大型モニター3台及び質問席の小型モニターに表示
 - エ 磁気ループ
磁気ループ対応の傍聴席で、貸出し用端末も用意

～ 所 感 ～

「議会棟に関する調査特別委員会行政視察所感」

東 野 敏 弘

西脇市では、西脇市役所が耐震構造上大きな問題があり、建て替えるべきか、大規模改修すべきかで、現在検討が進められています。西脇市議会では、建て替えるにしろ、大規模改修を行うにしろ、市民に開かれた市議会を創る上で、議会棟（本会議場や委員会室等の議会関係の諸室）はどうあるべきであるかを調査検討することになりました。

6月定例会において、調査特別委員会が設置され、私が委員長に就任しました。市庁舎を新しく建設された市町や特徴的な市町を行政視察しながら、委員会を開催し方向付けを12月定例会までには行いたいと考えています。

特別委員会最初の行政視察を8月19日に行いました。午前には三田市議会へ、午後には南あわじ市議会へという強行軍でした。しかし、中身の濃い視察だったと思います。

三田市議会

三田市議会は、議員定数22名、議会事務局職員7名です。議員報酬月49万円、政務活動費年72万円です。

三田市議会では、前中議長より、新庁舎建設に至る経過、議会としてどのようにかかわっていったかについて、説明をいただきました。調査特別委員会を設け、議会として行政に早めに検討提案を行うべきであると指摘されました。

新庁舎は、昨年12月に竣工し、本年1月より業務を開始しています。現在は、最終段階の駐車場棟の外部工事が行われています。総工事費は、約55億4千万円で、これまで積み立ててきた基金内で賄ったそうで、借金もせず建設しました。

新庁舎建設の4つの基本方針は、①誰にも分かりやすく、人にやさしい、利用しやすい庁舎、②業務の効率化を図り、質の高い行政サービスが提供できる庁舎、③地域の防災拠点となる、市民の安全と安心を守る庁舎、④自然と共存する、環境にやさしく、周辺環境に調和した庁舎。

議会諸室は、6階最上階に配置されています。エレベーターを降りると、向かいに議会事務局が配置されています。議会を訪れる市民の方を案内できやすい点、不審者チェックを行えるセキュリティ面も考えられています。

傍聴ができる本会議場、委員会室が、入り口付近に配置されています。本会議場が、床段差を設けず、フラットな空間として利活用できるように工夫されています。さらにすべての机・椅子等は、可搬式のものを採用しています。これまで、本会議場で、フルートのコンサートを行ったそうです。議長席のみが高くなるよう段を設けていますが、昇降がしにくいように感じました。

委員会室は、3室ありますが、区切りはスライディングウォール（パーティション）を用い、大きさを変えることができるようになっています。遮音の問題を検討する必要がありますが、経費削減、機動性に対応した設定といえます。

セキュリティ設定された通用門を通ると、議長室、副議長室が両隣に設置され、奥に会派室、議員応接室（2室）が配置されています。会派室は、スチールパーティションで間仕切りがされています。現在、三田市議会は、6会派と無会派1人と別れています。会派の所属議員数が変わる度に、スチールパーティションとはいえ、会派室の変更工事を公費を使って行うのはどうかと感じました。

中継システムについては、図面入りの別冊資料を用意してくれていました。三田市議会は、本会議と議会開会中の委員会をインターネット中継で行っています。また、市役所や市内9施設では地域イントラネットを利用して、市民の皆さんがライブ中継で見ることができます。

本会議場や委員会室等では、机・いす等は可搬式のものを採用し、さらにマイクも可搬型を使用しています。そのため、マイクの充電を絶えず行わないといけません。

三田市議会が配置されている6階最上階は、展望がよいこともあり、『市民展望ひろば』として活用されているスペースがあります。日々多くはないようですが、市役所を訪れる市民の方が、昇ってこられているとのことでした。今年夏の花火大会では、希望市民の方を抽選で招待することです。

また、議会報告会とは別に、市政相談会を毎月1日に行っています。そ

の案内ポスターが、市役所各所に掲示されていました。開かれた市議会を目指して、頑張っておられることがよく分かりました。

南あわじ市議会

南あわじ市議会は、議員定数18名、議会事務局職員7名です。議員報酬月34万6,500円、政務活動費年15万円です。

南あわじ市新庁舎は、今年4月に完成しました。総事業費は、29億2,360万円と比較的安価だと感じました。合併前の旧4町（緑町・西淡町・南淡町・三原町）の備品も活用され、経費を節減して建設されたと強調されました。ただ、合併特例債が27億1,320万円も占めています。財政運営上、大丈夫かと疑問に感じました。新庁舎建設に当たっては、設計の段階から地元業者とのJVを組むことを条件にした一般競争入札で行ったそうです。

廣内議長が忙しい中、出迎えていただき、議場等も先頭になって案内していただきました。

新庁舎建設の6つの基本方針は、①誰もが訪れやすい庁舎、②分かりやすい庁舎、③市民に開かれた庁舎、④機能的で経済的な庁舎、⑤災害に強い環境共生型庁舎、⑥南あわじらしい庁舎。

議会諸室は、4階最上階に配置されています。三田市と同様、エレベーターを降りると、向かいに議会事務局が配置されています。議会事務局室は、ガラス張りで訪問者に安心感を与えます。また、議場ロビー、展望ロビーが設けられ、広々とした空間が設けられています。ここで、テレビモニターで議会傍聴を行うこともできます。

本会議場の床面は、フラットな状態です。設計の段階で今後の利活用を考えてとのことでした。委員会室は狭く感じましたが、行政側の出席者は課長以上三役だけだそうです。ただ、予算決算特別委員会は、議長・監査委員を除く全議員と三役以下全課長が出席となると、入れなくなるそうです。そのため、分割審査を考えているとのことでした。

正副議長は、同室でした。会派室は、パーティションによる間仕切りが行われています。ただ、いくつかの会派が同室で活用しているところもありました。会派室が、西脇市議会においても本当に必要であるのか考えさせられました。議会図書室は、これから図書の整備を行うとのことでしたが、貧弱な感じがしました。議会応接室は、大変広く、会議室のように感じました。三田市のように個別の相談室には使いにくいように感じました。

議会中継システムの整備は、新庁舎建設工事とは別に議会事務局が担当して行ったそうです。議会中継システム等設置工事の詳細な設計図も配布していただき大変参考になりました。

本会議・委員会室とも、これまでケーブルテレビ放送とインターネット放送を別々に撮影していたが、一つの機材で同時にできるようになりました。カメラ・マイク・テロップがボタン一つで連動し、操作や編集の負担が軽減されました。有線マイクを採用しており、無線マイクだとバッテリー

一切れになる恐れがあるため不採用となったそうです。ただ、有線だとせっかくフラットな本会議場や委員会室が別の形で活用しにくいと感じました。

南あわじ市議会においても、合併10周年企画「南あわじ子ども議会」を8月1日に開催されたそうです。西脇市議会と同様、議会基本条例を制定し、市民により開かれた市議会づくりに頑張っておられることがよく分かりました。

検討すべき課題

今回の三田市議会・南あわじ市議会への視察で、私が検討すべき課題だと感じた点を列挙します。

- ① 議会棟を別に考えるのではなく、市役所のある階のフロアを議会フロアとすべきであること。その際、最上階にすべきであるのか、市民が訪れやすい1階・2階にすべきなのかを検討すべきこと。
- ② 議会フロアは、議会単独ではなく市民交流スペース的な要素を入れるべきではないか。
- ③ 本会議場は、利活用しやすいように、フラットなものにする必要があること。
- ④ 本会議場の傍聴席数と傍聴席もフラットな面に配置するかどうか？
- ⑤ 委員会室も利活用しやすいように、固定的な部屋にするのではなく、量によって大きさが変更できやすいように工夫する必要があること。
- ⑥ マイクは、有線にするか無線にするか。私は無線にすべきだと考えます。
- ⑦ 会派室を、設置すべきかどうか。設置するとすれば、会派室の変更が容易にできる工夫が必要であること。
- ⑧ 議員応接室を大会議室にするのか、小会議室にし複数室を設置するのか。
- ⑨ 議会中継を行うスクリーンの配置をどこに置くのか？
- ⑩ セキュリティの面から、議会事務局を議会フロアの入り口にガラス張りで配置すること。
- ⑪ 議長、副議長室を別室にするか同室にするか。

「議会棟に関する調査特別委員会行政視察所感」

古 西 祐 子

今年度になり、市庁舎建て替え問題が、俄然議論の俎上に上がるようになってきた。私たち西脇市議会はこの度、「議会棟に関する調査特別委員会」を急遽立上げ、新庁舎の中で議員が関わる議会棟に関して調査研究し、年内に議会として市に答申することとなった。私個人的には、この特別委

員会を議会棟に限定せず、新庁舎建て替えに関する特別委員会にすべきであったとは感じる。

市では、学識経験者や公募の市民などで構成する「西脇市公共施設適正化検討委員会」を今年度立上げ、市内における公共施設の適正化について調査審議することになっているが、そこで新庁舎への方針が年度内に市に答申される予定だ。

◎三田市◎ [人口] 114,559人

新庁舎の概要

〔敷地面積〕 19,329㎡

〔建物概要〕 建築面積：2,485㎡ 延べ面積12,955㎡

地上6階建て 高さ32.80m

〔構造〕 鉄筋コンクリート造（免震構造）

〔工期〕 平成25年3月～平成26年12月

（全体工期は平成28年度末）

〔総事業費〕 55億4千万円

本体工事費（建築・電気・機械）・・・3,772,680千円

附帯工事費（太陽光・家具工）・・・・・・84,395千円

設計・管理費・・・・・・・・・・・・・・・・76,662千円

〔設計監理・施工〕

設計監理：株式会社綜企画設計

建築工事：奥村・フジタ・但南特定建設工事共同企業体

電気設備：関電工・内田電工特定建設工事共同企業体

機械設備：大成温調・みたか特定建設工事共同企業体

三田市役所は今年平成27年1月13日から新庁舎で業務開始されたばかりだ。私たちが訪れた8月には、まだ外構の工事中であり、完全に完成するのは平成28年12月末の予定で、まだ1年半ほど先になるという。

新庁舎建設に当たり、重視した点

- ① 誰もが利用しやすい庁舎
- ② 質の高い行政サービス
- ③ 防災拠点としての市庁舎
- ④ 環境面への配慮

ということで、多くの工夫が凝らされている。

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、わかりやすいサインはもちろんのこと、1階のエントランスには総合案内の人的配置をしている。また新庁舎開設にあたり、庁をあげての接遇研修を受け、おもてなしを徹底された。低層階に市民の利用が多い部署を集約させると共に、1階と2階を結ぶエスカレーターが設置されている。

職員の執務スペースは、間仕切りを作らずオープンプラアになっていて、

パッと見、課の区切りがわからない。これは将来の機構改革などの配置換えに即座に対応でき、効率的。

高い耐震安全性を確保するため、若干割高感があるが、建物の損傷を受けにくい、免震構造を採用している。また、屋上階には自家用発電設備の設置がされている。

自然エネルギーの活用・省資源化の考えの元、太陽光発電設備の設置、雨水利用、自然換気の利用（吹き抜けの設置）、LED灯、人感センサー電灯など、高効率の設備機器が導入されている。

そして、議会関係諸室についてだが、議会棟ではなく議会フロアとなっている。最上階の6階に集約配置されている。エレベーター前に議会事務局が配置され、来庁者がすぐ受付できるようになっている。またそこには議員の電光出退勤ボードが置かれている。

議長室と副議長室は個別に設置され、その間に正副議長応接室が配置されている。広い委員会室が1つあり、状況によりパーテーション（スライディングウォール）で3室に分割できるようになり、フレキシブルに対応できとても効率的であると感じた。視察当日は2分割で利用中であり、その1つで私達の視察研修の会議があり、隣室で三田市議会の委員会が開催されていて、その委員会中の声がわずかに漏れ聞こえてきていたのは少し気になった。そこでこのことについて質問すると、この度採用したスライディングウォールは、防音性など最上級のグレードの物ではないということだったが、その日のパーテーションの取り付け方が、ちょっと雑だったようで、いつもより声の漏れが少し大きいという説明だった。

議場は、三田青磁の登り窯をコンセプトに、バックボードや天井には三田青磁が施され、三田市の伝統産業にこだわった、高尚な文化の薫りが漂う空間になっていた。床は段差を設けず議長席以外はフラットになっていて、各席は可搬型の独立した什器になっていた。同時に、各席には、可搬型ワイヤレスマイクが置かれている。

会派控室は、会派の変動への対応がフレキシブルにできるよう、スチールパーテーションでの間仕切り壁になっている。これは、先ほどの委員会室のパーテーションとは違い、間仕切りを変更する場合、多少の工事費がかかることになるという。

また、とても特徴的なのは市民展望ひろば（展望テラス）の併設である。これは市民が議会に訪れやすくなると共に、市民の憩いの場として利用してもらえるととても素敵な場所であると感じた。夏の花火大会には抽選で選ばれた市民を招待し、見物すると言う。絶好の花火鑑賞スポットらしい。

三田市議会事務局の方の説明で印象に残ったのは、可搬型の机に置かれている可搬型ワイヤレスマイクのバッテリーの充電を毎日50数個行なわなければならないという話しに、そのご苦労がにじみ出ていた。フラットな床の議場に可搬型の机にマイク。最先端の設備に思わぬ落とし穴があるのもだと個人的には感じた。議場の床をフラットにすることで、議場の多様

な使い方が可能になるという進歩的な考え方があるが、机など可搬型にしてもそれを収納する場所はなく、床がフラットというメリットを最大限に享受できるかということとそんな感じには受け取れなかった。

また三田市議会議長の話では、三田市の場合新庁舎建て替え特別委員会を議会の中で作ったが、新庁舎の建て替えが決まった段階で解散したらしく、そのことは大きな失敗だったと言う。特別委員会は、新庁舎の建設が完成するまで残し、最後まで絡んでやるべきだったと反省点を述べられた。

また、市長室を見せていただいていたはいないが、議長が言われるには、市長室と議長室は月とすっぽん程違うそうである。

しかし全体的にみて、最先端の技術がいたるところで採用され、いろいろな工夫もなされとてもすばらしい市庁舎であり、議会フロアであると感じた。

◎南あわじ市◎ 〔人口〕 49,544人

新庁舎の概要

〔敷地面積〕 23,791.27㎡

〔建物概要〕 建築面積：2,258㎡ 延床面積7,055㎡

 地上4階建て 高さ22.015m

 駐車場／約400台 駐輪場／約20台

〔構造〕 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

 基礎免震構造

〔工期〕 平成25年9月～平成27年2月

 （全体工期は平成28年度末）

〔総事業費〕 2,923,600千円

 工事費・・・2,473,401千円

 新庁舎建設工事・・・2,209,319千円

 新庁舎建設外構工事・・・253,390千円

 中央庁舎改修工事・・・10,692千円

 委託費・・・158,451千円

 基本・実施設計業務・・・67,683千円

 測量・地質調査業務・・・6,783千円

 工事監理業務・・・38,673千円

 移転作業及び移転支援管理業務・・・32,365千円

 その他関連業務・・・12,947千円

 用地取得費及び補償費・・・261,762千円

 備品購入費・・・29,986千円

〔財源〕 合併特例事業債・・・2,713,200千円

 一般財源・・・210,400千円

 （合計2,923,600千円）

※合併特例事業債は、元利償還金の70%が交付税参入される。

〔設計監理・施工〕

基本・実施設計委託業務・工事監理業務／

N T Tファシリティーズ・社家一級建築士事務所・フ
タバ設計共同企業体

新庁舎建設工事／大林・柴田特別共同企業体

新庁舎建設外構工事／株式会社宮本土建

南あわじ市役所は、今年平成27年4月6日に開庁し、6月1日にフルオープンしたばかりの真新しい市庁舎であった。

新庁舎における議会棟に関する視察は、南あわじ市議会としては、当西脇市議会が初めての受け入れだということだった。

新庁舎のコンセプトは、

- ① 誰もが訪れやすい庁舎
- ② わかりやすい施設構成
- ③ 市民に開かれた庁舎
- ④ 機能的で経済的な庁舎
- ⑤ 災害に強い環境共生型庁舎
- ⑥ 「南あわじ」らしい庁舎

外観で目を引くのが、コンセプト⑥でうたわれている「南あわじ」らしい庁舎ということで、淡路瓦を効果的に使っている。デザイン性にも優れていて、好印象を受けた。

三田市役所でもそうであったが、機能的な庁舎とするため、柱の少ない工法を採用し将来的な変更にもフレキシブルに対応できる構造となっていた。

議会フロアは新庁舎最上階4階にある。エレベーターを降りるとゆったりした議場ロビーがあり、すぐ横に議会事務局が配置され、そこの前を通過して、議場や委員会室、また、議員控室に行けるようになっていて、理想的な動線に思った。

しかし、南あわじ市議会の議会フロアの感想は、できたばかりで恐縮だが、とても使いにくそうだということだ。議会活動・議員活動する上で、使用頻度が高い委員会室（議員協議会室も）や議員控室が狭く、機能的とは思えない。一方、議場や議場ロビーがゆったり過ぎるくらいゆったり作られていて、そのアンバランスさが目を引く。委員会室での審議では西脇市と同じように考えると、執行部の方があまり入れないというのは明らかであり、私たちが視察に訪れた翌日にそのことについて話し合いをすることであった。しかし、なぜそれが設計の段階で議論にならなかったのか解せない。

後で、議会事務局の方に細かく尋ねると、今までの庁舎では、議員のほぼ全員が委員になる予算決算特別委員会は、委員会室ではなく議場でされ

ていたと聞いた。委員会室の2倍はありそうな議場で委員会をする方がやりやすいであろうと納得したが、ただ委員会審議を議場でするということに驚いた。そういうことは一般的なものであろうか。

三田市と同様に南あわじ市でも、議場の床が議長席を除きフラットになっていた。「机は全て可搬式のものを採用し、机を場外へ搬出することで、フラットな空間をセレモニー等に利用できる。」と説明資料にもあったが、三田市と違って南あわじ市は机に設置されたマイクが有線となっていて、OAフロアの床にきれいに収納されているため、いくら可搬式の机であっても、そのコードの処理の問題を考えると、机を場外へ搬出することは、容易ではない。また三田市と同様に、仮に机を搬出したとしてもそれを収納する場所は確保されていない。

そういう細かい点を見ていくと、南あわじ市の議場フロアには、ちぐはく感が否めなく、残念に感じられることが多い。使う人の意見が取り入れられたのか疑問に感じる。

その他一つ一つの設備機器などは、最新の技術のものが採用され、それらについては、素晴らしいものがあった。

この特別委員会の視察に際し、私は特に議場に注目しており、1年間のうち20～30日ほどしか使わない議場の効率的な使い方を研究したいと考えていた。事前の調べでは、議場の床をフラット仕様にするだけで、議場が多様で効率的な使い方ができるという私自身はいいイメージを持っていた。

この度視察した2市とも議場をフラット仕様にしてはいたが、おそらくこの2市は議場の多様な使い方をあまりしないであろうと思う。その場合の労力・負担は相当大きそうだ。議場を多様な使い方ができるようにするには、様々なハードルがあることがこの度よく分かった。それなりの空間やそれに対応した設備機器が必要だ。

そしてなにより重要なのは、設計や設備機器などの採用には、議員や議会事務局など現場の人の声をしっかり取り入れ、使いやすい議会棟に作り上げていくことが必須であると強く感じた。

「議会棟に関する調査特別委員会行政視察所感」

岡崎義樹

今回は、本年度に新庁舎改築された三田市役所と南あわじ市役所を調査しました。まず、三田市役所の構造は、地上6階建ての鉄筋コンクリート造であり、免震構造でした。総事業費55億円で新庁舎では38億円。現在、旧庁舎の西庁舎、西2号庁舎、南分館は耐震性を満たしているので、残されており、教育課と上下水道課が南分館に配属されていました。本庁舎内では、質の高い行政サービスの提供として、間仕切りをもたな

いオープンフロアを持ち広々とした空間でした。

また、防災拠点としての機能や環境面への配慮でも、いろいろな工夫がされていました。緊急時の対応として、最上階には自家発電設備の設置やトイレ等では雨水利用を利用した給排水設備、災害対策として、屋外活動スペースの整備では、出入り口部分にひさしを設けたり、太陽光発電設備、吹き抜けを利用した自然換気システム、LED灯なども導入されていました。

議会フロアについては、6階フロアを議会全体のスペースとして集約されており、議場は最上階に配置されており、吹き抜けを設けているので、採光もあり、全体的に明るい。それとフロア全体が広く、市民の憩いの場としての展望広場を設けているので屋上からの展望もでき、眺めも良かった。議会事務局の前にエレベーターがあるので、セキュリティについては、来庁者に対しての監視ができています。

議場内では床面もフラットで段差もなく、傍聴席では少し高さがあるため、車いすの方への配慮として、スロープを設けていました。議場内の両サイドには、大型モニターを2基設置されており、吊天井と屋上からの採光を取り入れるなど、明るいイメージを持った議場でした。委員会室や会派控室などに関しては、会議形態等によって、スチールパーテーションを使用しているため、今からの時代はこういう形が主流なんだなと思いました。ただ議長室、副議長室、正副議長の応接室の3室があり、必要があるのかなとも思いました。

次に南あわじ市役所の構造では、地上4階建の一部鉄骨造を含む鉄筋コンクリート造であり、ここでも免震構造でした。新庁舎の事業費は29億円。現在、旧庁舎の2つの別館が隣にあり、教育課や社会教育課等が配属されています。庁舎内は、行政サービスの提供として、柱の少ない工法を用いたロングスパン構造を使用しています。また、環境面では、太陽光発電設備の設置や自家発電設備等がありましたが、コスト面からLED灯の導入など、設備投資を削減しているのが驚きました。

議会フロアについては、4階全体が情報課と議会スペースとして集約されており、本庁舎の南北にエレベーターが2基設置されていました。それと議会事務局の通路側全面がガラス張りとなっているので、来庁者がある場合、議場への入り口などが丸見えとなっているので、セキュリティ面に関しての監視もできています。

また、議場内の床と傍聴席の床の高さがフラットであり、段差もないので、障がい者の方への配慮はされているのですが、傍聴席との仕切りの高さが低いので、傍聴席から議場への乱入等ができるため、セキュリティとしての安全性は、如何なものかとも思いました。それと議場と委員会室の間に、音響やカメラ操作ができるモニター室を設けていました。会派控室では大部屋を会派の数に合わせて、高さ2メートルぐらいのパーテーションで仕切っているだけで、部屋全体として、あまり広くない。

よって、隣の部屋の声がよく聞こえるので、これではプライバシーは無いかなと思いました。

両市を視察して、それぞれ特徴のある庁舎でありましたが、西脇市としても、今後は防災拠点としての機能、環境面への配慮、ユニバーサルデザインの観点、市民にとって快適な庁舎について、施設整備だけでなく、より良い行政サービスの提供等を含めて、考えていくべきでしょう。それと議場フロアに関してですが、委員室や控室など、会議形態によって間取りが変えられるスチールパーテーション、議会事務局でのセキュリティ対策として、前面をガラス張りにするなどの工夫をしたり、フロア全体を明るくするために、自然採光を取り入れたり、傍聴席では、来庁者の方への配慮として、床面をフラットするなど、傍聴席数では、議場開放など、たくさんの方に来ていただくためには最低50席以上は確保が必要でしょう。今後はこうした事も含めて検討をしていくべきでしょう。

「所 感」

岩 崎 貞 典

今回議会棟に関する調査特別委員会において行政視察を行った。合計6市を訪れる予定であるが、この度は三田市と南あわじ市を訪問した。両市とも今年新庁舎が完成、特に三田市は地上6階建ての鉄筋コンクリート作りでホテルのような外観であった。一階部分の外壁は大部分がガラス張りで大変ゴージャスな感じを受けた。ロビーもゆったり空間で、正に市民目線に立った造りである。

総合案内、エントラスホールも広々としており天井も高く大変贅沢な造りである。これからの庁舎には将来必要である太陽光発電（70kw）や雨水を地下に貯留トイレや植栽に利用をする。また、自然換気を目的とした吹抜けを設置するなど未来型の建築物であると感じた。総工費55億、本体工事約40億。

南あわじ市は地上4階建の鉄筋コンクリート造りで、南あわじらしい庁舎ということで外壁や渡り廊下のひさしなどに、南あわじ産の瓦を積極的に使用している。正面は1階から4階まですべてがガラス張りにしてあり古風な中にも豪華な感じがした。特長としては、誰もが訪れやすい庁舎、分かりやすい施設構成、市民に開かれた庁舎、機能的で経済的な庁舎、災害に強い環境共生型庁舎などをコンセプトしているらしい。総工費約29億、本体工費約22億円。

三田市

議場

・議場内は段差無し、傍聴席はゆったりとってある

- ・ゴージャス、マイクはワイヤレスだが感度が少々心配、事務局が充電、チェック (B)
- 委員会室
 - ・3部屋あり、それぞれパーテーションで仕切っているため会議中の声が聞こえる (C)
- 議員応接室
 - ・少し狭いように思う (C)
- 正副議長室
 - ・正副議長室は別々にありその真中に応接室があり良いと思った (A)
- 会派室
 - ・全10室こんなに必要なし
 - ・もっと広くとって部屋数を減らしては (C)
- 議会事務局
 - ・うなぎの寝床のようで職員が気の毒
 - ・窓も少なく暗い (C)

全体的な印象としては議会棟に関しては委員会室、会派室の廊下は狭く息苦しさも感じる。もっとゆったりとり各部屋を広く明るくする必要ありと感じた。

南あわじ市

- 議場
 - ・段差の無いフラットな議場
 - ・傍聴席は低くセキュリティやや心配
 - ・全体的にはシンプル
 - ・自席マイクがモニターに連動しておりボタン一つで作動が可
 - ・天井からの集音マイクあり (各委員会室も) (B)
- 委員会室
 - ・やや狭い、議員協議会室は特に狭い (B)
- 議員応接室
 - ・応接室は一つしかなく、もう一つあるほうが良い (C)
- 正副議長室
 - ・兼用につき別々の方が良い (B)
- 会派室
 - ・パーテーションで仕切っているが狭い上に暗い、窓が少なく照明も少ない (C)
- 議会事務局
 - ・ガラス張りで窓も多く広々と感じる
 - ・EVの前なのでセキュリティも万全か (A)

全体的には廊下は広くとってありました。仕切りはパーテーションなので、隣の声が聞こえる、セキュリティは万全ですが、廊下のドアはすべてオートロックにつき通行カードが必要なため、少々やっかいで面倒だと思った。

今回の視察は、三田市と南あわじ市であったのだが、他の視察時に議会棟を見学させていただいたところもあり、まとめて所感を述べます。

まず、栃木県矢板市であります。築後40年以上経過していましたが、東日本大震災において、震度5強でありながらビクともしなかったのは、階段が、西脇同様両方向から斜交いに設置されていたのが、功をなしたとの説明をいただきました。

本会議場の傍聴席が、最近各地で取り入れられているように、低い位置にあった。議長副議長室が別であった。

40年以上前に、この発想は、と感心した。

加東市、豊岡市、篠山市、可児市、鳥羽市、そして三田市、南あわじ市であるが、新築になると想定して、議会棟の総面積に対して配置の工夫が大事であると感じた。

現在の西脇市議会棟の配置は、議員控室（会派室）と事務局室が離れていて、セキュリティの問題があるが、本会議場と委員会室における理事者控室は、良好であると思える。

三田市の事務局は、位置的に良好と思えたが、スペースの狭いところが気になった。

委員会室3つが、スライディングウォールにて形態が変えられる、これは真似る必要があると思える。

南あわじ市の委員会室は、1と2が壁にて完全に遮断され、設計上耐久問題で止むを得なかったようだが、本会議場横の広いスペース（モニターによる傍視聴スペース）は、是非西脇市にもと思えるが、配置の問題であろう。

これからの議会は、議員数も少なくなり、会派のあり方も更に変わってくるだろう。個室にするか、全体の中で衝立等にて仕切るか、議論が必要と思える。ただ個々の机は必要であろう。

議会図書室は、どことも、あんなものだろう。市の図書館との連携を強化していけばいいのではないか。

最後に本会議場だか、使用頻度を考えれば、他にも使用可能にとの思いもあったが、三田市を見て、考えは変わった。コンパクトに厳かにを基本に、現在の西脇市議会本会議場の傍聴席を低くした姿を想定したい。

モニターやマイク関係では、コードレスは結構だが、本会議場は、トラブルの可能性を最小限低くする、他に移動する必要がなければ、コードがあっても大丈夫だろう。委員会室は、使用頻度から見れば、コードレスが便利かも知れない。

モニターは、出来る限り適宜配置が望ましい。

ネット中継だが、南あわじ市の委員会をみると、議員側、理事者側の切り替えのみで、個々の議員や個々の理事者がアップされていなかった。

今回設置した西脇市の委員会室は、理事者側が無い、南あわじ市の委員会中継で、理事者側の発言時に理事者側の映像が無いことを想定したら、異様に感じるのだが、これも議論の必要があるだろう。

議会棟の階だが、市民窓口は1階、2階等に集中する必要があるだろう。そうすれば、自ずと上階になってくる。できれば、南あわじ市のモニターによる傍聴スペースを1階に設置できればと思う。

まだまだ、違った視点から建設された議会棟もあるだろうから、さらに情報収集を進め、まとめていく必要があると思う。

「議会棟に関する調査特別委員会行政視察所感」

村 井 公 平

(三田市)

庁舎全体としては、総事業費55億4千万円をかけ6階建てでグレードの高い建物を作られた。建物内部について、真ん中に吹抜け（エコポイド）が設置されており、中間期には空調設備に頼らない室内換気が行えるそうです。これの設置により全体の建築面積が大きくなるため廊下等は大変狭く感じました。又、6階には市民展望広場が作られており市民が市街地を一望できる憩いの場所が作られている。私はこれら2つの設備は西脇市では必要ないと思いました。防災面においては、防災拠点としての機能を維持するため免震構造や災害対応設備として屋上階に72時間連続運転可能な自家発電装置や耐震性を備えた受水槽を設置して給排水機能を一定期間確保出来るよう整備されている。これらは今後、庁舎改築に際しては大変参考になると感じました。また、執務室や廊下は狭く感じましたが、窓口的な市民対応の場所についてはゆったりと十分なスペースが確保されており、特に1階のロビーは大変広く感じました。西脇市ではこれほど広くは取れないと感じました。

議会棟については、最上階の6階に設置されておりました。議場については、机、椅子とも可動式で、床はフラットになっており、傍聴席も段々にはなっておりますが同じ階に設置されておりました。車いすでの傍聴席も用意されておりました。床のフラットな議場をはじめ、可動式の机、椅子や傍聴席については参考になりました。議長室、副議長室は別々に取られており、中に挟まれて応接室が設置されておりました。今後は少し狭くてもこの様式を検討してはと思いました。委員会室は3部屋あり同時に委員会が開催できるようになっておりましたが、西脇市では委員会には市長が出席することになっており、検討を要する課題であると感じました。議

場内のライブや録画等については十分に行き届いた設備になっておりました。マイクも充電式の移動式になっておりましたが、充電する手間がかかるのが欠点と言われておりました。会派控室はそれぞれの会派人数に合わせて用意されており、一人会派も1室ごとになっておりました。西脇市もこれにならうべきと思いました。

(南あわじ市)

庁舎全体としてはコンパクトな建物と感じました。建設費も用地取得費を含め29億2千万円で標準的な建物と感じました。この建物には、PRを兼ねて南あわじ市の産業である淡路瓦が使われているのが特徴でありました。西脇市も播州織などの使用の検討も必要ではないかと思いました。特に気になったのは、入札に際して地元業者との企業体を条件にしている点であり、地元業者への配慮がされていたことでありました。

議会棟については4階に議会関連施設が設置されておりました。議場は段差のないフラットな議場になっておりました。傍聴席も同じ目線で見られるようになっており、車いす対応も出来ておりました。また、議場を多目的に使いたいとも言われており、西脇市も今後は検討の必要があると思いました。委員会室、議員協議会室が用意されておりましたが少し狭い感じがしました。会派はありますが、会派控室は全議員が1室に入るようになっておりこの点については余り参考にできないと思いました。

ライブ中継や設備等についてはよく検討されており、傍聴者用に60インチの液晶モニター1台が設置されておりテロップ入りの議会中継の映像が見られるようになっており、西脇市も検討すべき点であると思いました。南あわじ市ではマイクは有線でありました。有線か充電式かどちらが良いのか見当が必要と思いました。

所感「議会棟の整備とはその議会の審議のあり方を反映するものだ」

林 晴 信

議会棟は、その議会のあり方によって多種多様に変わってくると思う。議会棟を考えることは最終的には西脇市議会が目指す議会のあり方とはどういふものかを考えることだろう。単に「こんな建物がいいなー、こんな委員会室がいいなー」では駄目なのである。

端的に言って、法的に設置義務があるから存在しているだけの議会であるならば、屋外にプレハブかテントでも張って議会をやっていればいいのである。しかしそうではあるまい。我々がどういふ審議を本会議場や委員会室でやっといこうとしているのか、また議会の権能とは何であるのか、議会とはどうあるべきなのかをしっかりと考えた上で議論していく本特別委員会ではなければならないことを最初に言っておきたい。

【三田市】

昨年12月に竣工した最新の庁舎だけあって、あれもこれもが整っている。ただ庁舎の規模は11万人都市にしてはこじんまりしているようにも感じる。

議会棟は庁舎最上部の6階にあり、6階1フロアが議会関係と市民展望ひろばとなっている。市民が集うひろばと議会が隣接しているのはいいアイデアだと思う。エレベーターを降りて、すぐ目に飛び込んでくるのが「議会からのお知らせ」掲示板であるのも、住民の目に触れることが多い、いい告知方法だと思う。ただ、問題は市民展望ひろばにどの程度の市民が来ているのか、だが。少なくとも私たちが行った水曜日の午前中には人影は無かった。祭りの花火の時にはたくさん人が来たと言っておられたが。

議場の前にロビーがあり、そこには椅子とモニターが設置してある。議場や委員会室に傍聴に入らなくとも気軽に審議を見ることができるのはいいと思うし、是非当市でも取り入れたいアイデアだと思う。昼からの南あわじ市も同様の取り組みをされていた。議会の無い日は、このモニターで議会情報や市政情報を流せばいい告知になると思う。

本会議場はフルフラットで机や椅子は全て可動式で、議場から出すこともでき、議会以外のセレモニーなどにも使うことができる。最近の流行でもあるが、西脇市も議場開放イベントをしているので、こういったことも考えなければならないだろう。もちろん、バリアフリーの観点から見てもフルフラットは必須だ(可動式にするかどうかはともかく)。本会議場も、インターネット中継への対応設備、資料提示やプレゼンにも使用できるような大型モニターなどはもはや標準装備といっている。

委員会室は最大3室までパーテーションにより区切りが可能。これは常任委員会が3つあり、閉会中は同時開催することもあるためだという。ただ定例会中の委員会審議は同時開催は無いということで、委員会インターネット中継の対応は1室として使用時のときのみ対応してある。これも西脇市議会にも取り入れるべきアイデアである。西脇市議会の場合、2室に区切れる対応でいいと思うが。

議員控え室はスチールパーテーション仕切りにより分離が可能。最大で10室に分離可能である。私は個人的には議員控え室は全て個室にすべきだと考えている。今は会派ごとの控え室使用で、会派に属さない議員は大部屋対応になっているが、本来、会派を組んでいない人々が一つの部屋に押し込められているのは差別的扱いである。共産党と公明党が一人ずつで控え室を独占していることも議運で認められたとはいえ不当だとも考える。西脇市議会は一人会派も認めているからそうなっているのだが、もし、今の会派に属さない人たちが一人で会派を結成したらどうするつもりなのだろうか。そういったことも考えられるので、控え室は個室にすべきである。そして会合ができる部屋を二つ程度おいておけばいいと考える(会派だけでなく他の会合にも使える。)

【南あわじ市】

以前に東播淡路議長会でも見させてもらったので、二度目の訪問となる。

ここの議場も最上階の4階にあり、ほぼ1フロア全部が議会関係である（一部情報課と印刷室がある）。ここもフルフラットな設計で、議員の机等は可動式ではないが、固定していないので移動は可能である。三田市議場との一番の大きな違いは、傍聴席である。三田市は階上にあるが、南あわじ市は同じ高さにあり、議場との仕切りも跨いで越えられるような低いものである。議会によっては近隣でも傍聴席から議場に降りて議員に飛び掛ろうとする者が出たりした事例もあったが、怒号飛び交うような緊張した議事になったときの心配はしなければならない。本来、暴力や圧力によって議論が侵されてはならないものである。私は議場にはそのあたりの配慮は必要であると考えている。危険な場合は秘密会にすればいいじゃないか、という意見もあるのかもしれないが、議会での議論はできる限り公開できるように努めることもまた大事なことなのである。

委員会室は一つだが、西脇市に比べると狭い。「こんなに狭いと理事者側の説明員に限られるのでは？」と心配するのだが、それは西脇市においては異常に多くの職員が委員会室に殺到している場面を我々が想像するからである。南あわじ市も三田市も、委員会室での答弁は課長までで、西脇市のように主幹（課長級だが）や主査が出てきて答弁することはないようである。自分の課に対する議員の質問答弁は課長一人で責任をもって答弁するとのことであった。確か、お隣の加東市でも同じようなことを言っておられた。何故、西脇市ではそれができないのだろうか？委員会をするたびに50人近い職員が委員会室やその裏の控え室で待機しているようでは、本来の業務はきっと停滞しているはずである。南あわじ市も三田市も答弁側職員の控え室など無いのである。西脇市議会もそうすべきである。

議員控え室は大部屋が一つだけ。以前に見た加東市もそうだが、会派会合もできないと不満が多いようである。

余談だが、いつも不思議に思うのだが、大きい自治体の議会であろうと小さい自治体の議会であろうと、議員がやらなければならない仕事の質や量にそう違いは無いはずである。しかし、議員の待遇には随分と差がある。自治体の議会にかけられるお金の額が違うとってしまえばそれまでだが、何故か職員の待遇にはそれほど差が無いのである・・・。

さて、両議会の施設を見せてもらったが、現時点での私の西脇市に取り入れるべき項目としては、下記の通りである。

【議場】

- ・フルフラット化して、バリアフリー化する。
- ・インターネット中継はもちろんのこと、ICT環境の整備をする。

- Wi-Fi環境も庁内とは別回線で整備する。大型モニターも配備する。
- ・傍聴席・記者席・議員席はセキュリティ面を考慮して配置する。
 - ・従来の対面式か海外にあるような円卓式かは議論すべき。

【委員会室】

- ・議場と同じくICT環境の整備
- ・パーティションで二室に分離できるようにする。
- ・プロジェクターの常設（天井に）
- ・市民傍聴席の確保（10席以上）

【議員控室】

- ・個室にする（最低限パーティション区切りでも可）
- ・市民相談や議員同士（会派）会合などにも使える応接室を二部屋程度作る。

【議会事務局室】

- ・議会事務局室の前を通らないと議員控え室等に行けないようレイアウトする（セキュリティの面から）。
- ・できれば、議場横にレイアウト

【その他】

- ・議長室、図書室は議会事務局室付近にレイアウト
- ・議場前にはロビーを作り、大型モニターと席を設け、市民が議場に入らなくとも気軽に傍聴できるようにする。

最後に、議員は毎日議会へ精勤し、議会棟そのものが議員の活動の拠点となるような整備ができれば「信頼される議会」は確実に前に進むものと考えられる。